

令和4年度 学校経営方針 養父市立大屋小学校

基本理念

ふるさと大屋に愛着と誇りをもち 未来に向かって挑戦する

学校教育目標

・憲法
・教育関係法規
・国及び県の教育方針
・市の教育方針

伸びよ 豊かに たくましく
～未来の郷土を切り拓く児童の育成～

・地域の願い
・児童、保護者の願い
・教職員の願い
・学級経営方針

めざす学校像

- 1 あいさつ・ありがとう・歌声が響き合う、活力のある学校
- 2 学ぶ環境が整い、安心・安全な学校
- 3 ふるさとに学び、ふるさを語り、ふるさとと共に歩む学校

めざす児童像

よく考え判断し表現し、
進んで学習する子

思いやりと正しい心を持ち、
とも 共に伸びようとする子

心身ともに健康で、
ねばり強くやりぬく子

めざす教師像

1 プロとしての使命感、教育愛に満ち、
新しい学びに挑戦し続ける教職員

2 学ぶ楽しさを教えられ、
良い習慣となるまで鍛えられる教職員

3 児童や同僚・家庭・地域の声を聞き、
協力し合える教職員

本年度の重点目標

- **SDGs大屋の食育を通して「郷土愛（おおや愛）」「感謝のこころ」「たくましい体」を育む**
 - 大屋校区の特色を生かした食育実践事業を推進し、「ふるさと大屋の素晴らしさ」を学び「生産者や調理者の方に感謝する心」「命をいただくという謙虚な心」や態度を育成する。
 - 大屋校区の特性を生かした様々な体験活動や地域の人材を生かした「やぶ・ふるさとキャリア教育」等で「ふるさと大屋や養父市の素晴らしさ」を実感させ、ふるさとを愛する児童を育成する。
 - 大屋の食育の実践により、地域の食文化の伝承や郷土愛の醸成を持続可能なものにする。
- **知・徳・体のバランスがとれ「確かな学力」を備えた児童を育成する**
 - 主体的対話的で深い学びをめざした不断の授業改善と、魅力のある授業や「ドリルタイム」、「ひょうご放課後がんばりタイム」の充実によって、学力の向上を図る。
 - 「運動プログラム」や運動の習慣化により、活力ある生活と意欲的な学びの基盤を培い、未来をたくましく生き抜くための体力や運動能力の向上を図る。
 - 「そうあんくんの日」の取組を、家庭の中だけではなく地域にも広げ、家庭や地域と連携し、家庭や社会の一員としての自覚を持ち、日常生活に生きて働く「自立」「自律」の力を育成する。
- **学校が起点となり、家庭・地域と一体となった「スクール・コミュニティおおや」をめざす**
 - 学校・家庭・地域が子どもの成長にかかわる参画者として、コミュニティスクール制度を推進し、連携することができる仕組みづくりを進め、地域への効果的な発信を推進する。
 - 小規模校の良さを生かし、教職員間のコミュニケーションと共通理解を十分に行うとともに、関係機関との連携を更に推進し、全児童を教職員総がかりで育成する。

大屋っ子合い言葉と大屋校区共通実践（9年間通して取り組む力点）

- 1) ① 大きなあいさつ ② 多くのありがとう ③ やさしさ・やる気 大屋っ子
- 2) 時を守り、場を清め、礼をただす・・・大屋小・中一貫の共通実践
- 3) ふるさとキャリア教育の充実・・・小学校・「SDGs大屋の食育」を通じてふるさと大屋を再発見する
- 4) 「そうあんくんの日」の取組を進める（読書、自学、お手伝い、正しい食習慣と食事マナー）

実践項目

知：かしこく

- 楽しくわかる授業の実践
 - ・めあてと振り返りのある授業
 - ・教材の視覚化・板書の構造化など、黒板を見てわかる授業
- ドリルタイム・放課後がんばりタイムの充実（支援増員）
- 基礎学力の定着向上に向けた漢字テスト・計算力テストの定期的な実践
- 主体的に学びに向かう態度の育成
- 読書推進の環境づくり
 - ・おすすめ本の見直し

徳：やさしく

- 道徳授業力の向上
 - ・講師を招聘した小中合同の授業研究をおこなう。
- 生活振り返りカードを生かした温かい仲間の学級経営
- 人権感覚チェックカードによる人権意識の高揚と確認
- 縦割り班活動の充実
 - ・全校遊び、縦割り清掃の充実
- 毎日ありがとうの実践
 - 例 終わりの会で「今日のありがとう」を発表する等
- 特別支援教育の充実「みんなちがってみんないい」の観点の学校・家庭教育推進

体：たくましく

- 体育授業の充実
 - ・養父市運動プログラムを生かした体育授業の充実
- チャレンジなわとび、チャレンジマラソンの実践
- 姿勢教育の徹底
 - ・授業中の姿勢点検の日常化
 - 45分授業中、2回点検
- かみかみタイムの継続
- 「あと一口」運動の実践
 - ・養父市平均残量を減らす
- 持久力を意識した清掃
 - 「床をふく」に力を入れる。

食に関する指導の実践＝ふるさと教育・命の教育へ

- 食育事業の実践の中で、外部講師を積極的に招き、ふるさと教育・命の教育を推進し、家庭・地域にも広げていく。

家庭・地域との連携

- 朝ご飯100%へなど、食事習慣、マナーなどの啓発を進める。
- そうあんくんの日「家庭ありがとう運動」の継続・読書・手伝い・自学推進

勤務時間の適正化

- 水・木・金は「家族」の日
 - 遅くとも18時全員退勤で、家族団らん
- 職員会議は16:30で終了
 - 優先順位とあとまわしの工夫

小中一貫教育・幼・小・中のつながり

- 一貫性や連続性のある実践をおこなう。
 - 6年生の中学校登校・SNSのきまりなど
- 授業規律・学習規律
 - 9年間を見通し、一貫した指導を行う。
 - ①次の授業準備 ②時間を守る ③正しい姿勢
- 合同行事・合同研修を行う。
 - 小・中合同研修(道徳) ・合同マラソン大会など